

## JICA 関西訪問プログラム

1. 目的 「JICA 関西」の国際関係機関・施設を見学し、その取り組みや研究成果を学ぶ。青年海外協力隊員との交流を通じて、国際時事問題に関心を深め、積極的に国際交流に取り組む態度を養う。
2. 日時 令和3年7月15日(木) 午前9:30～午後3:00
3. 場所 JICA 関西(独立行政法人国際協力機構)
4. 参加者 50回生 1年1組(国際探求学科)29名、引率教諭2名
5. 集合解散 阪神岩屋駅(駅前広場) 集合 午前9時30分 解散 午後3時
6. 実施内容

時間	内容
10:00～11:00	JICA 事業説明、質疑応答、 開発教育ワーク
11:00～11:30	館内見学
11:30～12:30	エスニックランチ
12:30～14:00	青年海外協力隊体験談
14:00～14:30	まとめ、諸連絡

7. 持ち物 しおり、筆記用具、交通費、水筒  
その他の持ち物、服装は学校内と同じルールです。

### 【生徒感想】

#### ●JICA 事業説明

- ・JICA に実際に訪問するまで、JICA が何をしているか全く知らなかった。お話を聞いて、「世界のつながり」や「少しの行動の大切さ」を知った。
- ・東日本大震災での支援が多く国からされ、「最貧国」に分類される国々からも支援をしてもらっていたことを知って驚いた。支援は先進国から一方的にするものだと思っていたが、「最貧国」からの支えがあることが印象深かった。
- ・世界の現状に合わせて、色々なことが改善されていっているのだとわかった。

#### ●国際協力ワークショップ

- ・日本が未達成のSDGsの項目が少ないながら5つあった。その5つは「自然」に共通してる項目が多いと感じた。
- ・日本が未達成であるSDGsの項目「ジェンダー」は、最近様々な場面で取り上げられているため、達成までそう遠くないのではないと思った。
- ・スマホや着ている服。それらが一体どうやって作られているか知らずに使っているのは、なにか危険な気がした。
- ・違う国の文化を知ることによってより人との関りが深くなるのだと関係を築けるのではないと思った。他国や自分の国のことを知ることは、将来様々な国と良い関係を築く第一歩になると思う。
- ・「ポイ捨て」や「食品ロス」を減らす、など自分でも簡単にできそうなことからしていこうと思った。

#### ●青年海外協力隊体験談

- ・私には、くだらないことを一緒にしたり言い合ったりしてくれる友達が当たり前について、当たり前で遊んだりしているけど、いつ何が起るか分からないんだと思った。いつ何が起るか分からないから、友達や家族、自分の好きな人や物事を大切にしていこうと思った。
- ・自分が今している勉強が、SDGsの「質の高い教育」につながることを知った。自分が行っている勉強方法などをJICAに提案すれば、発展途上国の子供たちの学習の向上につながるかもしれない。
- ・以前から海外への興味はあったが、今回の話を聞いて、心の底から海外に行きたくて困っている人を助けたいと思った。自分が成人したら、青年海外協力隊に参加したいと思った。
- ・自分たちが不便なく生きているのは当たり前ではないのだと感じた。海外の子供たちは大変な思いをしながら学校に行っている。自分が今過ごしている生活を当たり前だと思わずに、日々感謝しながら学校に行こうと思った。

